

2020年11月22日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「^{さんぽかい}燦歩会」例会(第497回)

京都一周トレイル・第4回 銀閣寺前から比叡山まで

「Go To」なのか「ステイホーム」なのか、コロナに揺れる2020年秋の3連休の中、燦歩会は第4回となる京都一周トレイルを敢行しました。

今回のコースは、東山コース「標識52」の銀閣寺前から「標識74」のケーブル比叡駅までの約8キロ、高低差は京都一周トレイルコースの中でも最大の600mです。健脚(?)を誇る燦歩会の精鋭(?)8名(男子7名、女子1名)が挑戦しました。

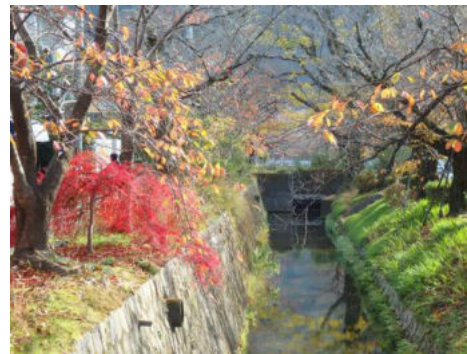
京都一周トレイルのコースには、安全に歩くために標識が設置してあります。標識の番号と矢印を確認しながら歩けば、道筋から外れるのを防ぐことができます。

<今回のコースと主な標識番号>

52-1 浄土寺橋 → 56-1 大山祇神社 → 58-1 白幽子旧跡 → 59-3 瓜生山 → 67 石鳥居 → 69 水飲対陣跡碑 → (浄刹結界跡) → 73-1 行者道分岐 → 73-3 電波塔 → 74 ケーブル比叡駅

この3連休、京都は例年以上の賑わいでしたが、このコースでは大きな観光ポイントは経由しないため静かに歩くことができました。(比叡山に登りますが、延暦寺までは行きません)

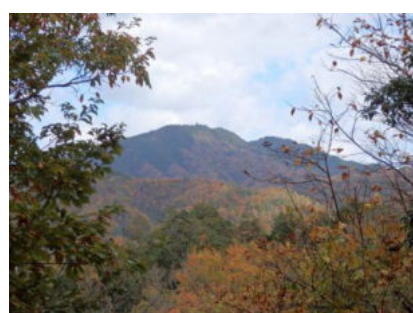
10:00 銀閣寺下の「標識52-1」浄土寺橋に精鋭8名が集合。琵琶湖疎水に架かるこの橋は哲学の道の終点でもあります。疎水沿いの桜は、もうほとんど落葉していました。



10:20 しばらく住宅地を歩いた後、「標識55」日本パプテスト病院の駐車場を過ぎたあたりから山道に入っていきます。

10:30 「標識56-1」大山祇神社の境内を抜けて、まずは瓜生山(301m)を目指します。

10:40 「標識58-1」白幽子(はくゆうし)が住んだという岩窟跡。白幽子は江戸時代中期の隠士で、臨済宗の禅僧白隠慧鶴(はくいんえかく)に「内観の法」を伝えたとして知られています。またの名を白川の仙人といい、真偽はともかく200年生きたといわれています。



瓜生山への途中、きょうの最終目的地、比叡山を望むポイントがありました。遠い・・・

11:00 **標識 59-3** 瓜生山(うりゅうざん)山頂に到着。特に眺望はなく、小さなお堂があるだけです。しかし実はここには室町から戦国時代にかけて軍事上重要な城郭があり、ちょうど今放送中の「麒麟がくる」の十兵衛(明智光秀)も、この城に数か月籠って延暦寺攻略の機会を図ったといわれています。結局信長により延暦寺は焼き討ちされるのですが、そのシーンはおそらく来週(11/29)の放送にでてくるのではと楽しみです。



瓜生山を越えるといよいよ比叡山への道です。降り積もった落ち葉をサクサク踏みながら、黙々と歩きます。12:00 **標識 65**のあたりで昼食。もうかなり登ったという感覚でしたが、じつはまだここまでは序の口でした。ちなみにお弁当はちゃんと全員ソーシャルディスタンスをとって食べました。



12:50 再び歩き始めて突然現れた**標識 67**石鳥居。が、付近に神社やその形跡らしきものは見当たらず、なんだったのかいまだ不明です。鳥居の柱には明治時代に建てられたらしい彫り文字がありました。石鳥居を過ぎるとまさかの下り、それもかなり急。これまで登ってきた分を半分くらい損した気分です(笑)。アップダウンを繰り返しながら3つの沢を渡りました。



13:10 **標識 69**を過ぎたあたり、浄利結界跡入口地蔵。延暦寺と俗界との境。女人はこれより先には進めず、修行僧はここから外に出ることはできませんでした。浄利結界を過ぎると、あとは比叡山頂までのひたすら厳しい登り。



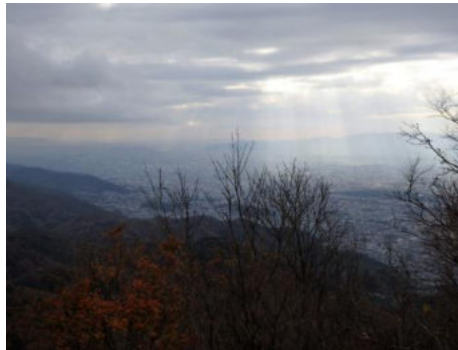
14:00 標識 72 のあたりまで登ると、このあたり一帯樹木が同じ方向に倒れていました。一昨年の台風の爪痕です。トレイル道をこうして安全に歩けるまで復旧整備させた京都府山岳連盟と関係者の皆様には感謝です。浄刹結界あたりから我々の前を歩いていたスカートにスニーカーという軽装の二人の女性。「山を甘く見るな」と言いたいところですが、分岐点で迷う二人に道を教えるやさしい我がメンバー。



14:10 標識 73-2 最後の階段道を登り(ここは苦しかったー)、14:20 標識 73-3 頂上電波塔の下まで到達。



14:30 標識 74 全員無事に東山コースのゴールであるケーブル比叡駅(標高 690m)に到着しました！比叡ビュースポットから登ってきた道を振り返ります。



高齢、いや恒例の記念写真。ケーブルで下界に降りると、八瀬のもみじがきれいでした。



<蛇足>

2018年4月28日放送のブラタモリ「京都・東山」で大文字山と比叡山がどうやってできたか、地質学者とともに説明していたのを覚えている方も多いでしょう。(写真下左、NHK「ブラタモリ」ホームページから)

この二つの山は、もともと一つの火山で、外側はホルンフェルスという固い岩盤、中がもろい花崗岩でできていて、長い年月の風化で花崗岩部分が削られ今の山容になったとか。我々はきょうこの削られた部分を歩いてきたわけです。そういえば登山道も崩れやすく、歩く度に削られていく感じです。(写真下右)

それにしても、タモリさんのような地質への知識があると、山歩きも楽しいでしょうね。



◇燦歩会では旧友会、職員のみなさまの新規入会をお待ちしています◇

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、通常はその日の都合と体調に合わせて自由参加ですが、**現在はコロナ対応のため事前予約制にしています。**

○今後の予定は・・・

- 2年 12月 納会 **新型コロナウイルス対応のため中止**
- 3年 1月 日本民家集落博物館で昔の暮らしを追体験! (大阪)
- 2月 浪花文学散歩 オダサク(織田作之助)の世界に誘います(大阪)
- 3月 第1回例会の北・山の辺の道(白毫寺)を再訪する (奈良)

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。(電話 090-1484-4403)

一緒に気軽に楽しく歩きましょう!

(写真・文 種田敦志)